

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： AMAホールディングス

上位関連計画にみる地域の将来
 ○2040年のなりゆきと目指す人口動態 (★)
 総人口 2,374人 (2010年) → 1,793人 (2040年) ★2,475人
 生まれる子どもの数 11人 (2010年) → 8人 (2040年) ★25人
 生産年齢人口 1,201人 (2010年) → 624人 (2040年) ★1,309人
 高齢化率 39% (2010年) → 46% (2040年) ★32.6%

②具体的なアクション (事業の担い手：海士町役場⇒A、風と土と⇒B、AMAホールディングス⇒C)
 1) 事業の種の見える化
 環境資本調査(B)、産業連関表の情報共有(A,B)、幸福度調査実施(A)、海士町資本白書作成 (2020以降,A,B)
 2) ビジョンづくり
 個人⇒ティール研修 (B)、地域⇒「ないものはない」ブラッシュアップ (A) ・日本⇒地方分散シナリオ未来図作成 (B)
 3) 事業化の応援
 人材提供 (島の人事部、C) ・情報提供 (コレクティブ イバクト、2020以降、B,C) ・資金提供 (eumo,A,C)

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境 (住みよいまち)	環境意識の向上	専門家を招いての講演	0	1		回
	島の環境資源循環に向けた議論	環境資源循環調査に向けた会議数	1	3		回
経済 (活力あるしごと)	産業連関表に関する議論の場開催	議論の場開催回数	0	3		回
		会議等延べ参加者数	0	30		人
	eumo実証実験の実施	電子通貨での売上金額	1,884	15,000		円
	海士町資本白書の作成	海士町資本白書の作成実績	0	1		件
	島の人事部による人材提供	人材提供実績	0	2		件
	コレクティブイバクト指標作成	指標作成実績	0	1		件
社会 (魅力あるひと)	個人のビジョンづくり	ティール組織から学ぶ研修開催	0	1		回
	ないものはないの町民意識醸成	ないものはないコンテスト応募数	0	50		件
	幸福度調査	幸福度調査の実施	1	2		回
	地方分散シナリオの未来図作成	未来図作成実績	0	1		件

⑤短期目標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

環境：住宅環境や福祉・医療・役場の基盤整備を整え、住民の問題意識を変えていく。問題意識を変えることによってゴミの排出量が減り、持続可能な環境づくりを目指す。
 経済：現状の特産品や観光の売り上げを伸ばしながら、新たな可能性の産業の創出を行う。そして、島内循環も高めることで、同じ経済規模でも高い経済効果をあげられる島づくりを目指す。
 社会：海士出身者が戻ってきたいと思える教育と、挑戦する1ターンが増えることで人口減少に歯止めをかける。また、第二町民の力をまちづくりに生かせる仕組みを推進する。
 ゴミの排出やリサイクルに向けた住民の環境意識を高め、ゴミの排出量減少、資源循環向上で、元来海士町が有する豊かな自然・文化と相俟って、持続可能な環境、環境が豊かと感じられる「住みよいまち」(環境)を整える。
 「住みよいまち」を整えつつ、海士町に戻ってきたいと思える教育の場づくり、挑戦する1ターン増、第二町民の力をまちづくりに生かせる仕組みにより、当事者意識を持つ「魅力あるひと」(社会)を育むことにもつながっていく。
 「魅力あるひと」を育みながら、現状の特産品・観光売上増加に加え、新たな産業創出、島内経済循環も高めるなどにより、持続可能な経済、「活力あるしごと」(経済)を生み出す島づくりを目指す。
 「活力あるしごと」を生み出しつつ、さらに「住みよいまち」を整えることで、「魅力ある人」が生まれ、皆が幸せに暮らせる島が形作られる。この好循環を回していくことで、目指す姿を実現する。

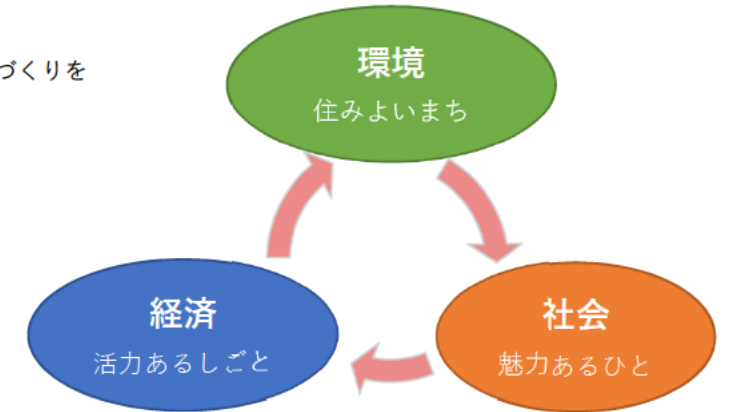
①目指すべき姿

目指す姿：自然と伝統文化、経済、最先端技術の調和の中で、老若男女みんなが手を取り合い21世紀を切り拓く島
 (経営指針：自立・挑戦・交流×継承・団結 みんなでしゃべる島づくり)

基本姿勢：島にあるものに目を向け磨きながら、島内外での心の通った関係づくりを重ねることで、島に新たな活力を生み出す。
 (海士町の生き様：ないものはない)

目指したい好循環：

「住みよいまち」(環境)を整えながら、「魅力あるひと」(社会)を育む
 → 「魅力あるひと」を育みながら「活力あるしごと」(経済)を生み出す
 → 「活力あるしごと」を生み出しながら、さらに「住みよいまち」を整える
 この好循環を回していくことで、21世紀を切り拓く島の姿を実現する



④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境 (住みよいまち)	ゴミの排出量の削減	1人あたりのゴミの排出量	0.49	0.45	2050年度	0.42	t
	脱炭素社会の実現	二酸化炭素実質排出量	—	—	2050年度	0	t
	自然環境の保護意識	農業を使用しない田んぼの面積	0.7	0.8	2050年度	0.80	ha
	当事者意識の醸成 (幸福度)	地域の課題について話した人の割合	57	65	2050年度	65	%
	開かれた共同体の形成 (幸福度)	おすそ分けをした人の割合	70	70	2050年度	70	%
	住みよいまちづくり (幸福度)	安心して住み続けることのできる町に向かっていると思う人の割合	50	55	2050年度	60	%
経済 (活力あるしごと)	生産額	海士町内生産額	152	152	2050年度	152	億円
	外貨獲得	生産額に占める移輸出の割合	13.6	14.0	2050年度	14.5	%
	お金の漏れの抑制	需要額に占める移輸入の割合	33.3	32.5	2050年度	32	%
	生活水準満足度 (幸福度)	現在の生活費に満足している人の割合	56	60	2050年度	65	%
	仕事のやりがい (幸福度)	今の仕事にやりがいを感じている人の割合	70	75	2050年度	80	%
	挑戦 (幸福度)	新しいことに挑戦した人の割合	29	35	2050年度	40	%
	応援 (幸福度)	誰かが行っている活動を応援した人の割合	43	50	2050年度	55	%
社会 (魅力あるひと)	人口	人口	2,374	2,308	2040年度	2,475	人
	生まれる子どもの数		11	17	2040年度	25	人
	生産年齢人口		1,201	1,164	2040年度	1,309	%
	高齢化率		39	42.4	2040年度	32.6	%
	ビジョン (幸福度)	「ないものはない」に共感している人の割合	62	65	2050年度	70	%
	幸福度	現在の暮らしに満足している人の割合	75	75	2050年度	80	%
	地域の文化 (幸福度)	伝統的な祭りや行事に参加した人の割合	69	70	2050年度	75	%

自然と伝統文化、経済、最先端技術の調和の中で、老若男女皆が手を取り合い21世紀を切り拓く島

